図27

確認検査で陽性の場合届出を行うか
（全保健所　n=533）

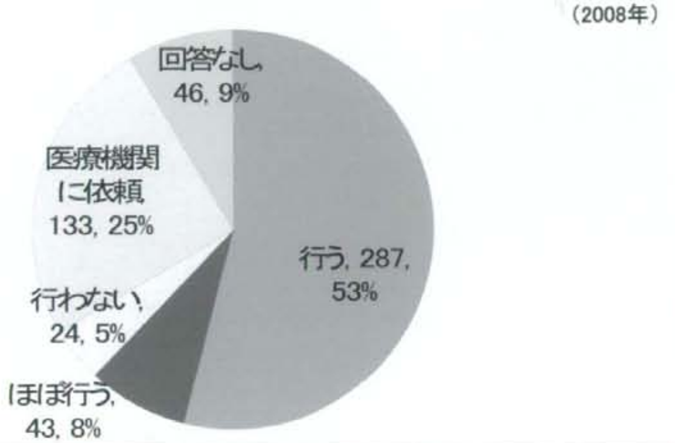
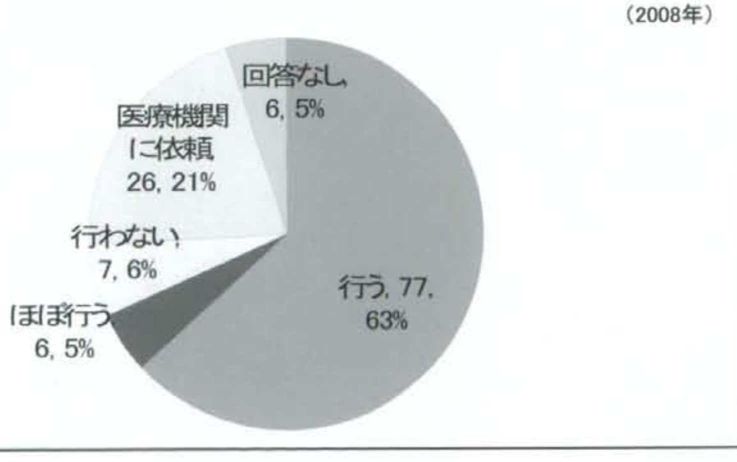


図28

確認検査で陽性の場合届出を行うか
（陽性者数　n=280人）



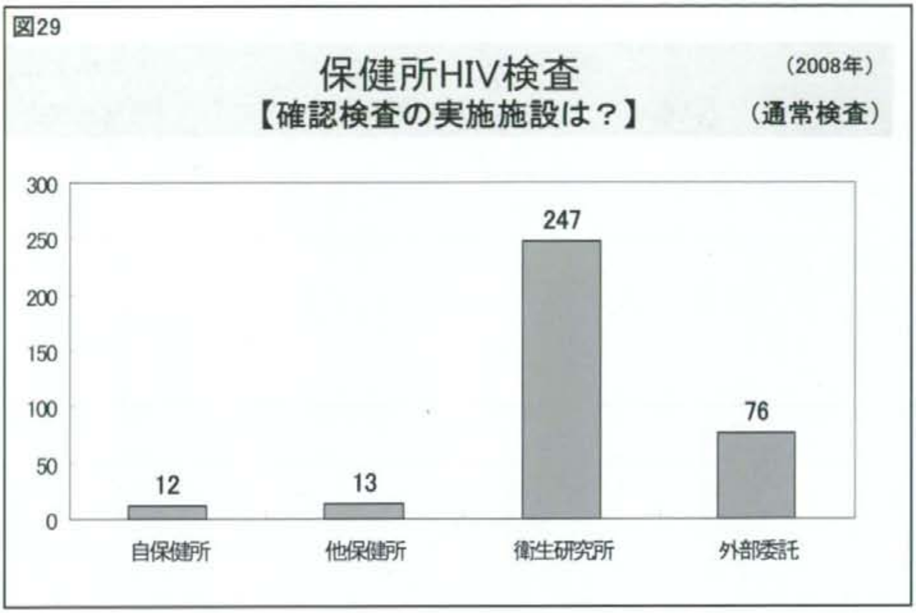


図29
保健所HIV検査
【確認検査の実施施設は？】
(2008年)
(通常検査)
300
250
200
150
100
50
0
12
13
247
76
自保健所
他保健所
衛生研究所
外部委託

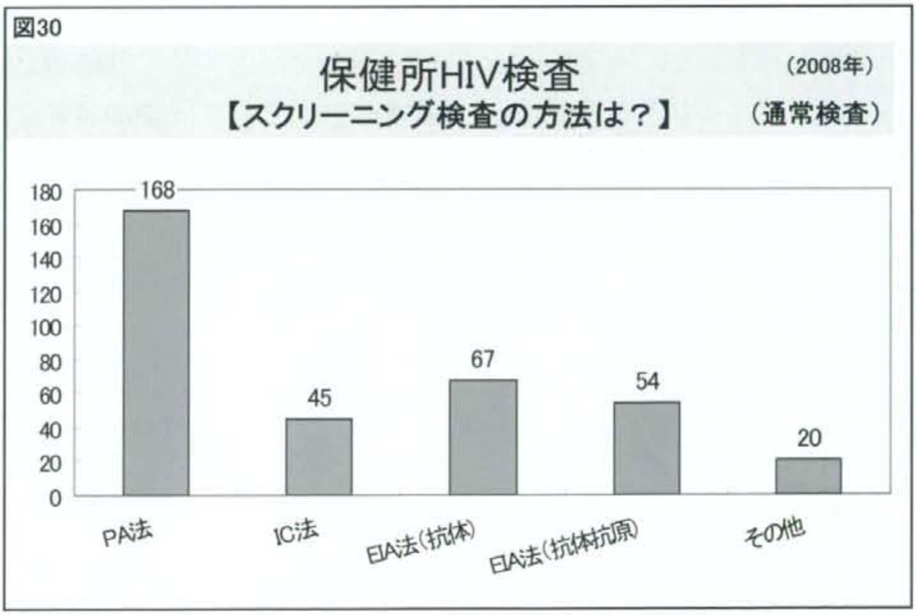


図30
保健所HIV検査
【スクリーニング検査の方法は？】
(2008年)
(通常検査)
180
160
140
120
100
80
60
40
20
0
168
45
67
54
20
PA法
IC法
EIA法(抗体)
EIA法(抗体抗原)
その他

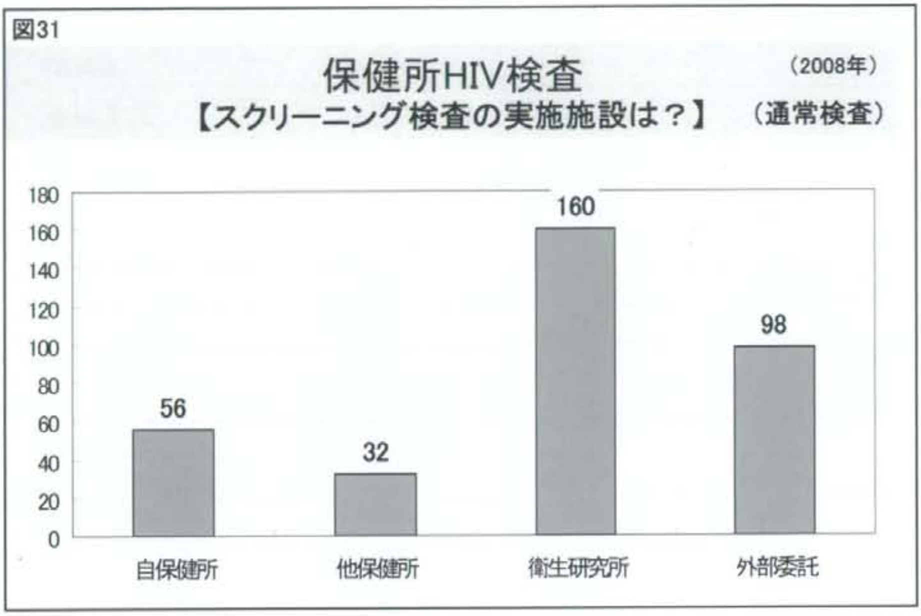


図31
保健所HIV検査
(2008年)
【スクリーニング検査の実施施設は？】
(通常検査)
180
160
140
120
100
80
60
40
20
0
56
32
160
98
自保健所
他保健所
衛生研究所
外部委託

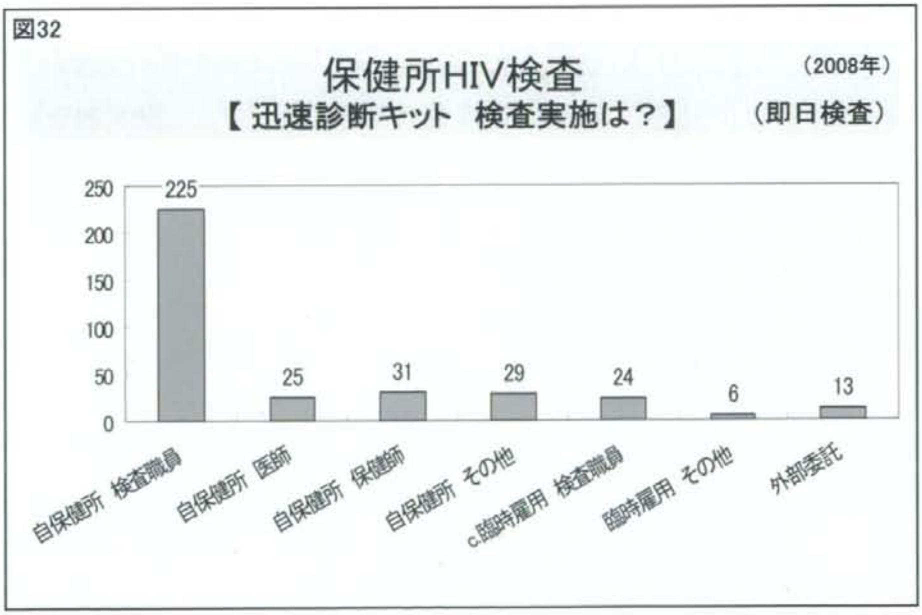
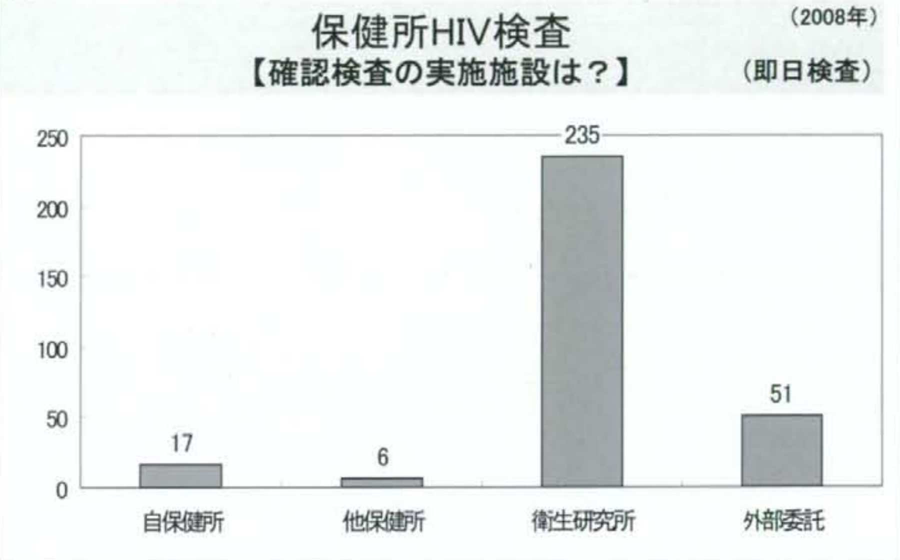


図32
保健所HIV検査
(2008年)
【 迅速診断キット 検査実施は？】
(即日検査)
250
200
150
100
50
0
225
25
31
29
24
6
13
自保健所 検査職員
自保健所 医師
自保健所 保健師
自保健所 その他
c.臨時雇用 検査職員
臨時雇用 その他
外部委託

図33


保健所HIV検査
【確認検査の実施施設は？】
(2008年)
(即日検査)
250
200
150
100
50
0
17
6
235
51
自保健所
他保健所
衛生研究所
外部委託

３．特設検査相談施設（南新宿検査・相談室）の受検者における HIV と STD に関する研究

研究分担者　小島弘敬　（東京都南新宿検査・相談室）
研究協力者　大野理恵　（神奈川県衛生研究所）
佐野貴子　（神奈川県衛生研究所）
近藤真規子（神奈川県衛生研究所）
須藤弘二　（神奈川県衛生研究所）
今井光信　（神奈川県衛生研究所）

研究要旨

南新宿検査相談室の受検者 6483 名中の HIV 検査陽性者は 63 名で陽性率は 0.9%であったが、MSM では 5.7%、非 MSM 男性 0.07%、女性 0.05%と MSM において陽性率が特に高かった。また、期間を限定して HIV 検査と共に STD 検査を行った 455 件での検査結果は、HIV については陽性が 5 件あり、4 件(3.6%)が MSM で、非 MSM と女性では 0 件、1 件はグループ分類不明であった。梅毒は、MSM17%, 非 MSM 男性 1.9%、女性 0.7%であり、MSM における陽性率が特に高かった。B 型肝炎（抗原と抗体）については MSM33%, 非 MSM 男性 15%、女性 13%であり、MSM における陽性率は他の群のほぼ 2 倍であった。クラミジアは MSM27%, 非 MSM 男性 21%、女性 23%であり、3 群において大きな違いはみられなかった。

また、南新宿検査相談室においては 1 月と 5 月に HIV 検査陽性者が多く検査相談やエイズキャンペーンの行われる期間には女性の受検希望者の増加等により予約電話の混雑するためもあってか、陽性者数が減少する傾向がみられた。

南新宿検査相談室での HIV 検査陽性者数の増減からは、「カレの元カノのカレ・・・」など、女性や一般集団を対象にした有力なキャンペーンは一考を要する側面のあることが分かった。

A．研究目的

南新宿検査相談室における受検者における、HIV、梅毒、B 型肝炎、クラミジア等の検査結果について、MSM、非 MSM 男性、女性の 3 群に分けてその陽性率等の変動等の実態を把握することにより感染の状況や受検者の動向を把握し、その後の予防活動に役立てるため研究を行った。

B．研究方法

期間を限定して HIV と同時に梅毒、B 型肝炎、クラミジア等の検査を希望する受検者に実施し、その結果を解析した。受検者のセクシュアリティ、検査回数等は自記の質問票によった。

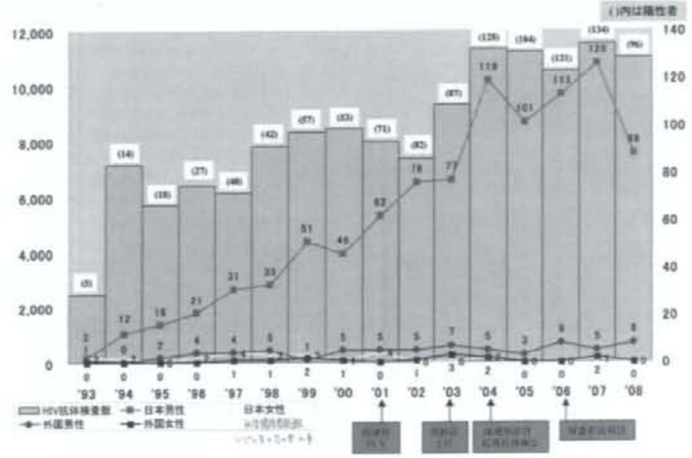
C．研究結果　考察

南新宿検査相談室の受検者 6483 名中の HIV 検査陽性者は 63 名で陽性率は 0.9%であったが、MSM では 5.7%、非 MSM 男性 0.07%、女性 0.05%と MSM において陽性率が特に高かった。また、期間を限定して HIV 検査と共に STD 検査を行った 455 件での検査結果は、HIV については陽性が 5 件あり、4 件(3.6%)が MSM で、

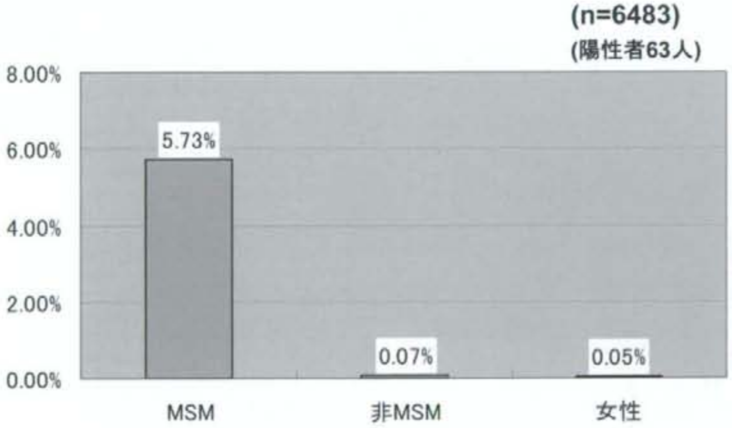
非 MSM と女性では 0 件、1 件はグループ分類不明であった。梅毒は、MSM17%, 非 MSM 男性 1.9%、女性 0.7%であり、MSM における陽性率が特に高かった。B 型肝炎（抗原と抗体）については MSM33%, 非 MSM 男性 15%、女性 13%であり、MSM における陽性率は他の群のほぼ 2 倍であった。クラミジアは MSM27%, 非 MSM 男性 21%、女性 23%であり、3 群において大きな違いはみられなかった。

また、2008 年には HIV 陽性者数の前年比 28.4%の減少が生じたが、受検者数、MSM 受検者数には著変がなかった。過去 4 年間で女性陽性者は 3 人(日本人 1 人、中国人 1 人、タイ人 1 人)であり、陽性者のほとんどはアナルセックスのある MSM であった。図示のようにキャンペーンが行われる 6 月、12 月のエイズ月間の STD 併検期間では、電話予約が激増し、女性を中心として低リスク受検者が増加し、結果として陽性者数の減少が生じることが分かった。南新宿受検者の約 40%には検査歴があり、高リスク群の検査反復が必須である。一方、低リスク群のリピーターの増加は検査効率からは問題となる。MSM と非 MSM 群では HIV 陽性率に大きな違いがあるため、計算上、MSM 20 人の来検者があれば 1 人の陽性者が見出されるが、非 MSM、女性では 2500 人の多数を要することになる。従ってこれら 3 群を一様な対象として考えることはできず、VCT における対象としてもっとも重要なのは高リスクの MSM の受検である。班研究期間中の毎日の来検者を 3 群に分けて図示した。陽性者が多いのは 1 月と 5 月である。STD 検査を併せ行うエイズ月間にはキャンペーンが行われ、女性数は増加し、予約電話が混雑するためか、陽性者数は減少する。「カレの元カノのカレ・・・」など女性に有力なキャンペーンは南新宿検査相談室のような検査相談にとってはマイナス要因として作用する面もあり、その観点からは一考を要すると思われた。

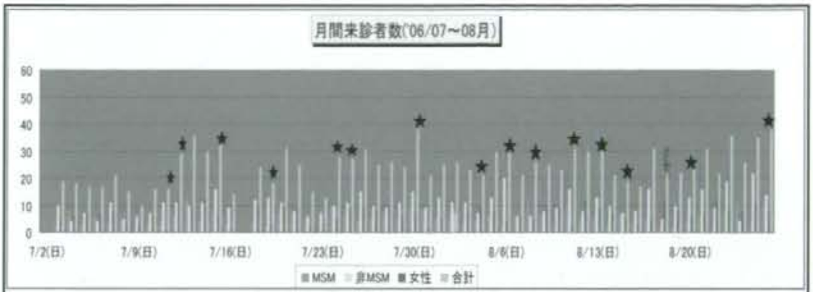
HIV感染者の国籍別性別　年次推移

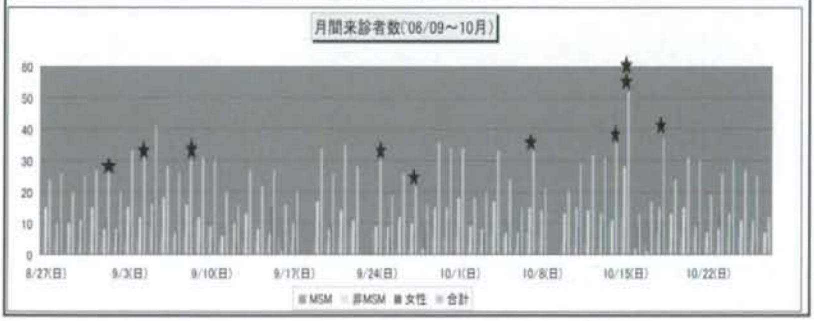


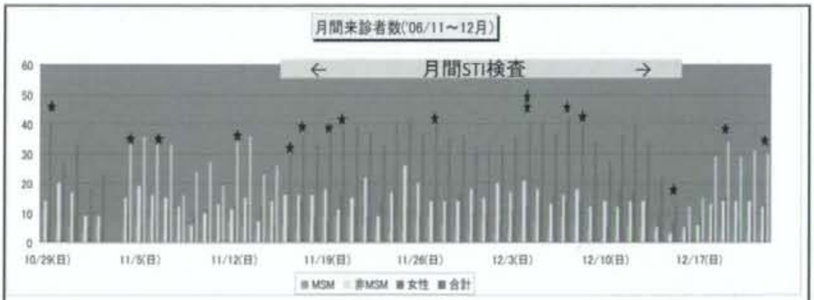
ＨＩＶ陽性率

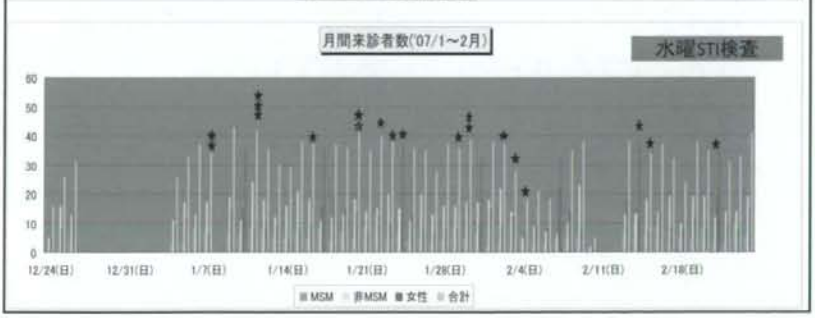


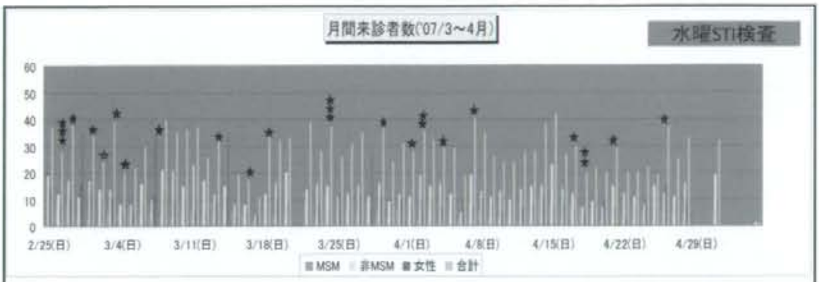
7

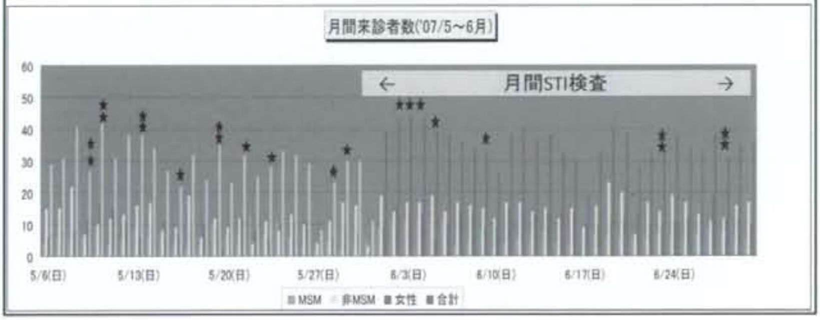

月間来診者数('06/07～08月)
7/2(日)
7/9(日)
7/16(日)
7/23(日)
7/30(日)
8/6(日)
8/13(日)
8/20(日)
MSM 非MSM 女性 合計

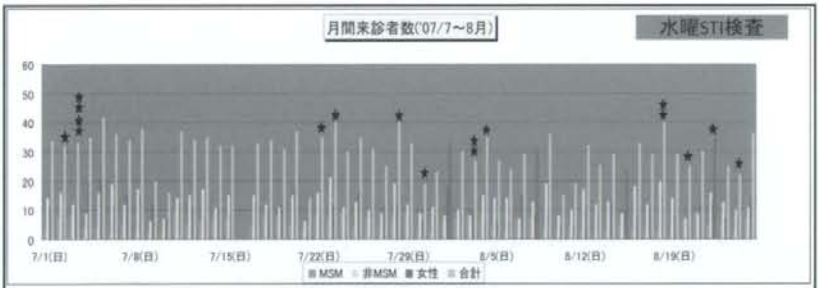

月間来診者数('06/09～10月)
8/27(日)
9/3(日)
9/10(日)
9/17(日)
9/24(日)
10/1(日)
10/8(日)
10/15(日)
10/22(日)
MSM 非MSM 女性 合計

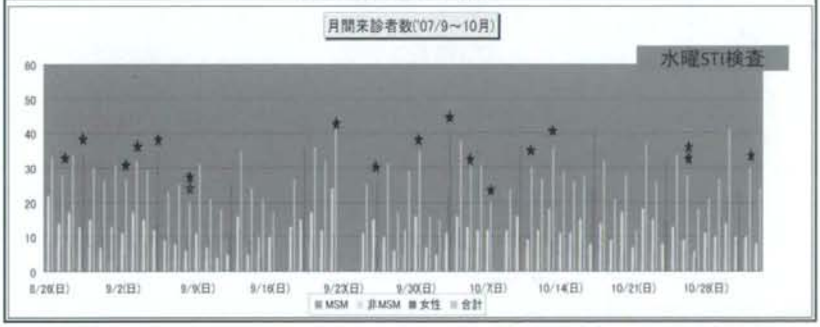

月間来診者数('06/11～12月)
← 月間STI検査 →
10/29(日)
11/5(日)
11/12(日)
11/19(日)
11/26(日)
12/3(日)
12/10(日)
12/17(日)
MSM 非MSM 女性 合計

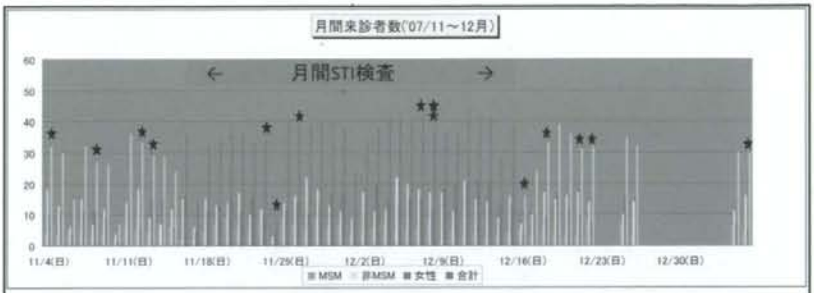

月間来診者数('07/1～2月)
水曜STI検査
12/24(日)
12/31(日)
1/7(日)
1/14(日)
1/21(日)
1/28(日)
2/4(日)
2/11(日)
2/18(日)
MSM 非MSM 女性 合計

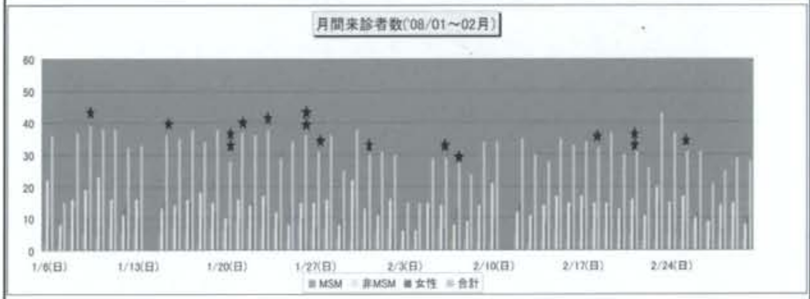

月間来診者数('07/3~4月)
水曜STI検査
0
10
20
30
40
50
60
2/25(日)
3/4(日)
3/11(日)
3/18(日)
3/25(日)
4/1(日)
4/8(日)
4/15(日)
4/22(日)
4/29(日)
MSM 非MSM 女性 合計

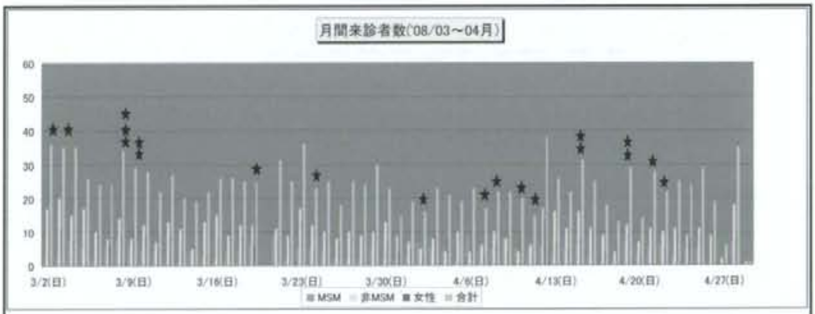

月間来診者数('07/5~6月)
← 月間STI検査 →
0
10
20
30
40
50
60
5/6(日)
5/13(日)
5/20(日)
5/27(日)
6/3(日)
6/10(日)
6/17(日)
6/24(日)
MSM 非MSM 女性 合計

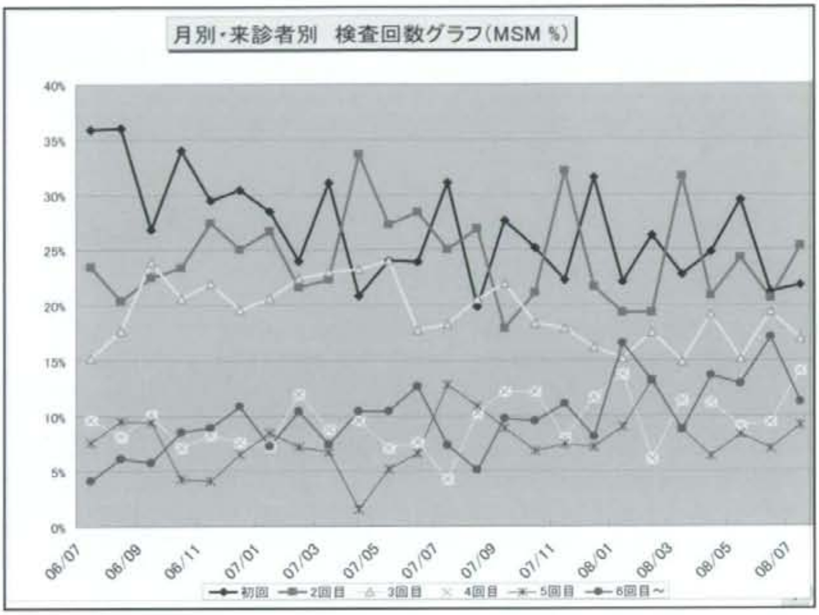

月間来診者数('07/7~8月)
水曜STI検査
0
10
20
30
40
50
60
7/1(日)
7/8(日)
7/15(日)
7/22(日)
7/29(日)
8/5(日)
8/12(日)
8/19(日)
MSM 非MSM 女性 合計


月間来診者数('07/9~10月)
水曜STI検査
0
10
20
30
40
50
60
8/26(日)
9/2(日)
9/9(日)
9/16(日)
9/23(日)
9/30(日)
10/7(日)
10/14(日)
10/21(日)
10/28(日)
MSM 非MSM 女性 合計

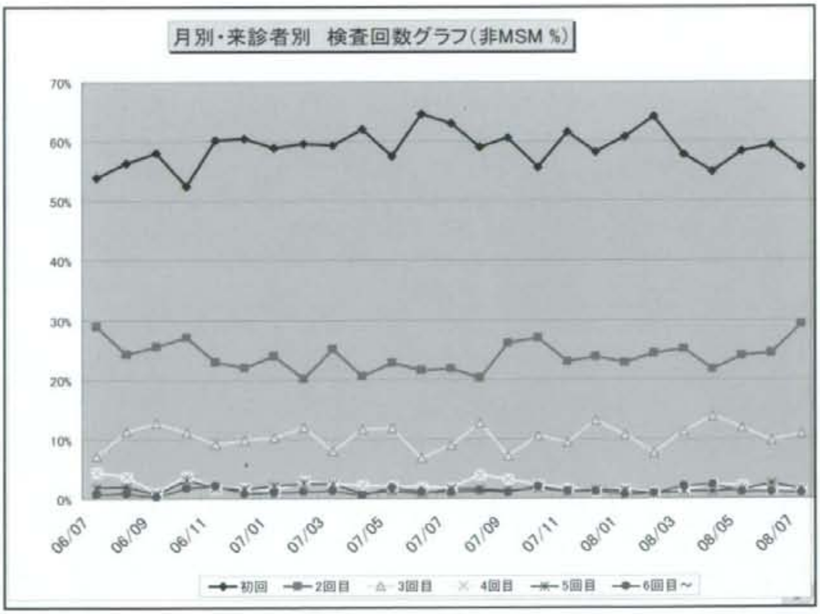

月間来診者数('07/11～12月)
← 月間STI検査 →
0
10
20
30
40
50
60
11/4(日) 11/11(日) 11/18(日) 11/25(日) 12/2(日) 12/9(日) 12/16(日) 12/23(日) 12/30(日)
MSM 非MSM 女性 合計


月間来診者数('08/01～02月)
0
10
20
30
40
50
60
1/6(日) 1/13(日) 1/20(日) 1/27(日) 2/3(日) 2/10(日) 2/17(日) 2/24(日)
MSM 非MSM 女性 合計

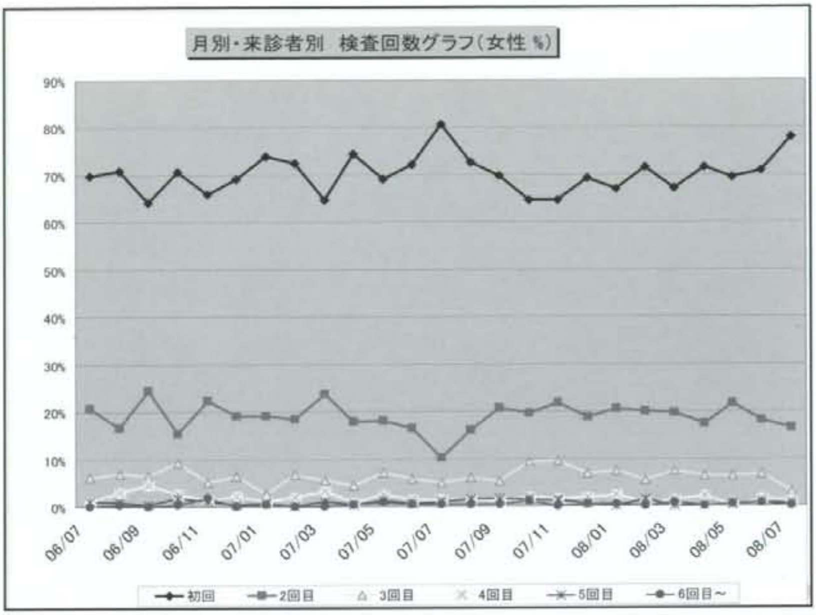

月間来診者数('08/03～04月)
0
10
20
30
40
50
60
3/2(日) 3/9(日) 3/16(日) 3/23(日) 3/30(日) 4/6(日) 4/13(日) 4/20(日) 4/27(日)
MSM 非MSM 女性 合計

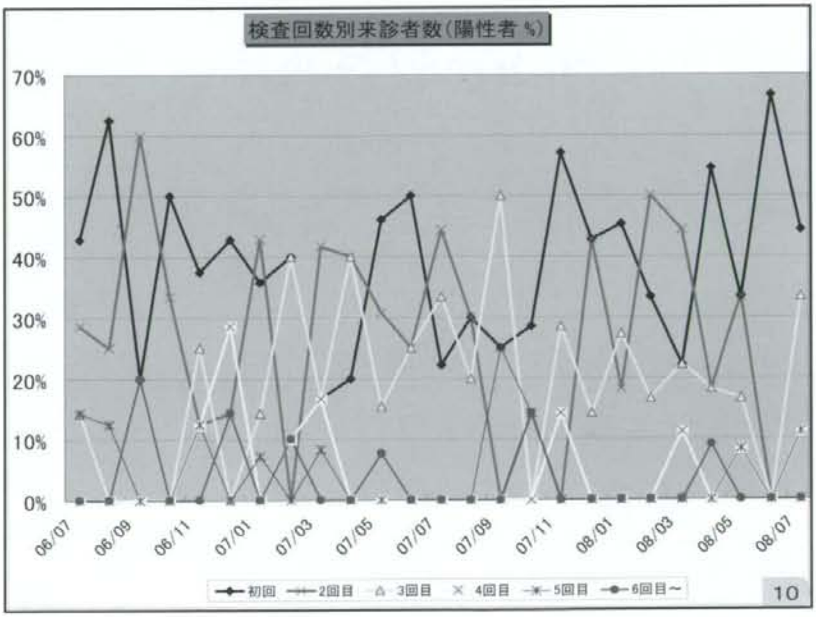


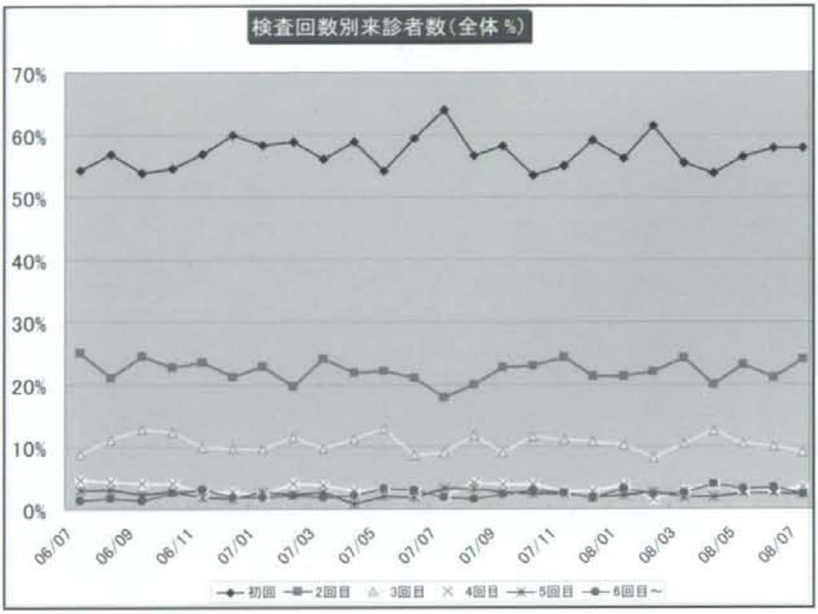
月別・来診者別　検査回数グラフ(MSM %)
40%
35%
30%
25%
20%
15%
10%
5%
0%
06/07
06/09
06/11
07/01
07/03
07/05
07/07
07/09
07/11
08/01
08/03
08/05
08/07
初回
2回目
3回目
4回目
5回目
6回目～



月別・来診者別　検査回数グラフ(非MSM %)
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
06/07
06/09
06/11
07/01
07/03
07/05
07/07
07/09
07/11
08/01
08/03
08/05
08/07
初回
2回目
3回目
4回目
5回目
6回目～


月別・来診者別　検査回数グラフ（女性 %）
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
06/07
06/09
06/11
07/01
07/03
07/05
07/07
07/09
07/11
08/01
08/03
08/05
08/07
初回
2回目
3回目
4回目
5回目
6回目～


検査回数別来診者数（陽性者 %）
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
06/07
06/09
06/11
07/01
07/03
07/05
07/07
07/09
07/11
08/01
08/03
08/05
08/07
初回
2回目
3回目
4回目
5回目
6回目～
10



検査回数別来診者数(全体%)
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
06/07
06/09
06/11
07/01
07/03
07/05
07/07
07/09
07/11
08/01
08/03
08/05
08/07
初回
2回目
3回目
4回目
5回目
6回目〜

月間中の電話接続数
3000
2500
2000
1500
1000
500
0
06/1
06/3
06/5
06/7
06/9
06/11
07/1
07/3
07/5
07/7
07/9
07/11
08/1
08/3
08/5
08/7
08/9
13

４．MSMを限定としたHIV/STD検査場の結果報告

星野　慎二（かながわレインボーセンターSHIP・横浜Cruiseネットワーク）

１．はじめに

横浜 Cruise ネットワークでは神奈川県との協働事業により、MSM(men who have sex with men)のHIV感染者とAIDS発症者の減少を目的としたコミュニティセンター「かながわレインボーセンター『SHIP』」を2007年9月から横浜駅西口に開設。MSM が周囲の人の目を気にせず、同じ仲間同士で情報を共有し合えるコミュニティセンターとしてオープンし、毎月第三月曜日にHIV/STD検査を実施してきた。ここでは、2008 年 1 月から 12 月までの、HIV/STD検査結果について報告する。

２．SHIPの事業目的

MSM の多くは自分が同性愛者であることを学校や職場の仲間、家族にも伝えることができず、自分自身のことを隠し偽り、"異性愛者"を装って生活している。そのことがストレスとなり、成人後のメンタルヘルスに大きく影響していると考えられる。また、メンタルヘルスとHIV感染リスクの高い性交渉との関連が先行研究で指摘されている。SHIPではMSMを対象に、同じ悩みを持つ立場から「自らがこころを開く機会の提供」、「正しく、かつ多様な情報の提供」、「専門カウンセラーによる継続的なカウンセリングの提供」などトータルな支援ができる「MSM 健康支援センター」を設置し、MSM 一人ひとりにきめ細かな支援を行うことを目的に設けられたコミュニティセンターである。　　通常はコミュニティセンターとしてオープンし、毎月１回MSM限定のHIV/STDの即日検査を実施してきた。

３．SHIPにおける特色

SHIPではHIV/STD検査を実施するにあたり、プライバシーの面に考慮した検査体制作りを行った。まず、コミュニティセンターのオープン日と検査日を完全に分けて、少人数制による予約制にするとにより、他の人と顔を合わせることがないよう配慮している。

受検者は移動や待ち時間が多いと不安に感じることがある。そのためSHIPではプレカウンセリングと採血を同じ個室で同じスタッフが行うことにより、受検者の移動を少なくし不安感を和らげるようにしている。（図１）

また、MSM の中には過去に HIV 検査を受けたことがありながら感染してしまう人が少なくない。このように検査のリピーターが感染してしまう背景には、情報や知識だけでは行動変容に結びつかないことが多い。行動変容を起こしてもらうためには人とのコミュニケーションを通じて自己の行動を振り返る作業が重要と考えられる。　当検査場では単に検査をするだけではなく、アンケートを活用しながらひとりひとりにきめ細かいカウンセリングを行うと共に、カウンセリングの内容をカルテに記録し(2008年12月より受検者から記録の同意を口頭で得ている)、長期にわたり健康管理が行えるようにしている。

４．検査方法

SHIPの検査は神奈川県健康増進課、厚生労働省科学研究費エイズ対策研究事業『HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究』、横浜市立市民病院、港町診療所、しらかば診療所などの各医療機関と連携して検査を実施

している。 検査結果が陽性判明した場合は、受検者と相談の上、専門の医療機関を紹介している。

実施日時：毎月第三月曜日　午後6時～9時（受付時間）

検査項目：HIV・梅毒・B型肝炎の即日検査（ダイナスクリーンを使用）

予　　約：電話による予約制（検査日の1週間前から受付）

定　　員：1日9名（2008年12月現在）

5．SHIPにおける受検者動向

2008年1月から12月までの受検者数は107人で、全員から調査倫理の同意を得た。

受検者の動向は以下の通りである。

(1) セクシュアリティ

MSM	99人（92.5%）
非MSM	8人（7.5%）

当検査場はMSM専用ではあるが、電話予約の際にセクシュアリティは聞いていないため、まれに非MSMが混じることがある。

(2) 受検者の居住地域（図2）

横浜市	49人（45.8%）
川崎市	11人（10.3%）
県域	22人（20.6%）
東京都	15人（14.0%）
千葉県	5人（4.7%）
埼玉県	1人（0.9%）
その他	3人（2.8%）
不明	1人（0.9%）

県内は82人（77%）、県外からの受検者が25人（23%）を占めていた。

(3) 年齢別構成（図3）

10歳代	1人（0.9%）
20歳代	41人（38.4%）
30歳代	51人（47.7%）
40歳代	11人（10.2%）
50歳以上	3人（2.8%）

20～30歳代の受検者数が多かった。

(4) HIV受検歴

初回	31人（29%）
受検歴有り	76人（71%）

(5) 過去に受検した施設

HIV受検歴のある76人が以前に検査を受けた施設

保健所	42人（55%）
南新宿	12人（16%）
SHIP	8人（11%）
イベント検査	5人（7%）
医療機関	6人（8%）
不明	3人（4%）

SHIPの8人は、当検査場のリピーターである。

6．検査結果

1年間の陽性者数は以下の通りであった。

HIV抗体	3人（2.8%）
梅毒TP抗体	13人（12.1%）
HBs抗原	3人（2.8%）

（月別の受検者数と陽性者数は表1参照）

6.1 検査陽性者の転帰

なお、HIV陽性者のうち1名はすでにHIVにて他院通院中であり、他のSTD検査目的の受検であった。1名は医療機関に紹介受診し、残る1名は他のSTDについて紹介受診したが、HIVについては未受診の状態である。梅毒TP抗体陽性者のうち、3名が、HBs抗原陽性者のうち1名が医療機関に紹介受診した。

7．考察

県外からの受検者が23%を占めていることや、事後アンケートで約90%以上がSHIPの検査を知人に進めたいと答えていた。ポストカウンセリング及びアンケート結果におけ

るポジティブなフィードバックから、利用者の満足度は高く、また10%のリピーターが含まれることから、MSMに親しまれ長期に利用されるサービス枠組みである可能性が示唆される。医療機関との連携を密に行い、検査陽性であった受検者が医療機関受診に確実につながるよう、より強力に支援することが今後の課題である。

参考文献：日高庸晴（2000）『ゲイ・バイセクシュアル男性の異性愛者的役割葛藤と精神的健康に関する研究』思春期学 18 巻 3 号 264-272，日本思春期学会

図１　検査の流れ

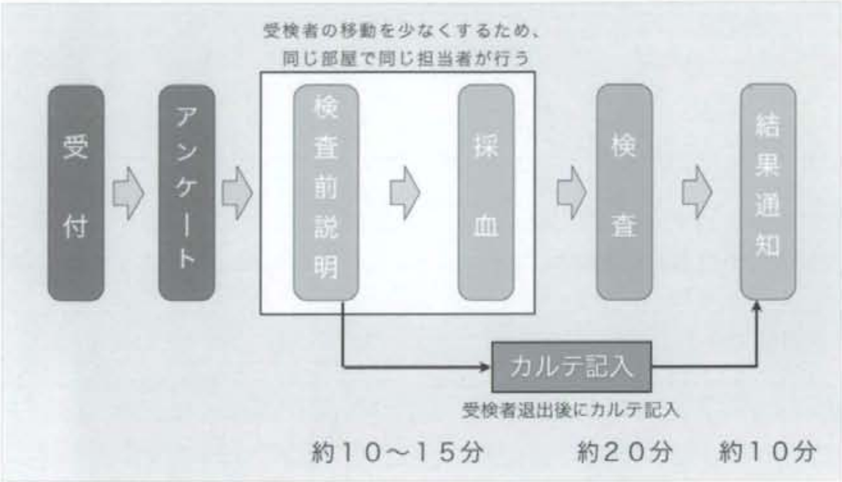


図２　受検者の居住地別構成

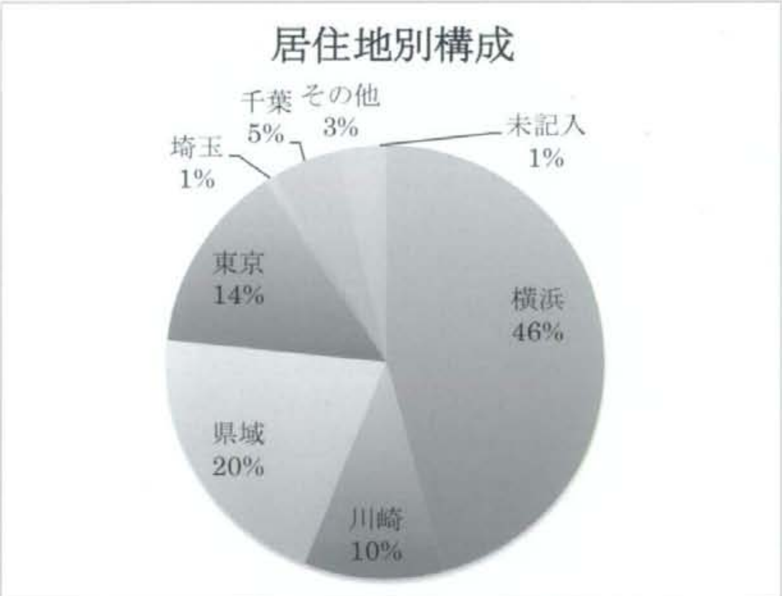


図３　年齢別構成

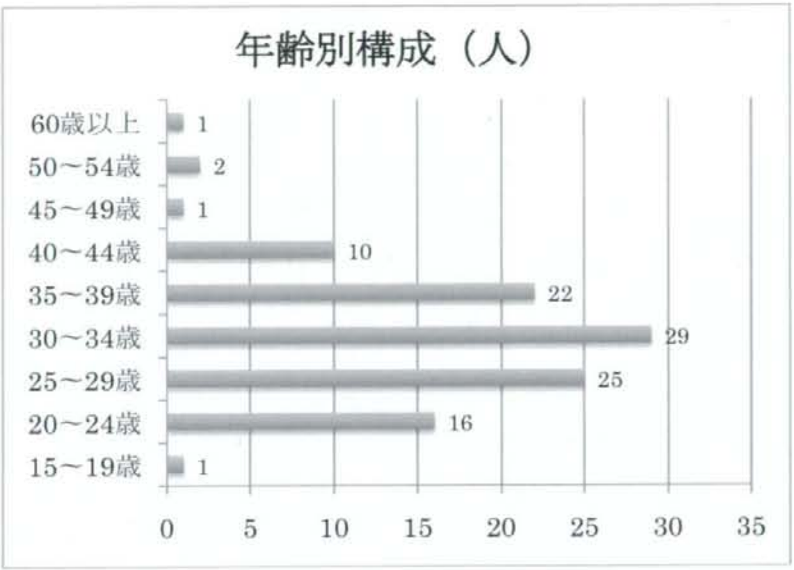


表１　月別陽性者数

	受検者数	HIV抗体	梅毒TP抗体	HBs抗原
1月	8	0	3	0
2月	9	0	0	0
3月	8	1	1	0
4月	5	1	1	1
5月	7	0	0	0
6月	10	0	0	0
7月	7	0	0	0
8月	7	0	0	0
9月	7	0	1	0
10月	9	0	1	2
11月	9	0	4	0
12月	8	0	1	0
12月（臨時）	13	1	1	0
計	107	3	13	3
割合		2.8%	12.1%	2.8%

5. HIV検査機関における即日検査の実施状況およびその効果

佐野（嶋）貴子　（神奈川県衛生研究所）
塚田三夫　（栃木県保健福祉部健康増進課）
岡本その子（栃木県保健福祉部健康増進課）
奥山啓子　（栃木県県南健康福祉センター）
渡部裕之　（江戸川保健所）
鍋島功弥子（江戸川保健所）
西大條文一（北新宿同仁斎メディカルCL）
赤枝恒雄　（赤枝六本木診療所）
大國　剛　（大國診療所）
尾関全彦　（尾関皮膚泌尿器科）
保科眞二　（保科医院）
吉尾　弘　（吉尾産婦人科医院）
江畑貴文　（文化村通りクリニック）
立山啓悦　（ひろクリニック）
山口眞澄　（新宿山の手クリニック）
鷺山和幸　（さぎやま泌尿器クリニック）
根岸昌功　（ねぎし内科診療所）
井戸田一朗（しらかば診療所）
西原　仁　（関内マリンクリニック）
近藤真規子（神奈川県衛生研究所）
潮見重毅　（栃木県県南健康福祉センター）
一色ミユキ（栃木県県東健康福祉センター）
渡辺晃紀　（栃木県県南健康福祉センター）
上山　洋　（江戸川保健所）
小泉京子　（江戸川保健所）
川畑拓也　（大阪府立公衆衛生研究所）
小林米幸　（小林国際クリニック）
尾上泰彦　（宮本町中央診療所）
大里和久　（大里クリニック）
岩澤晶彦　（岩澤クリニック）
上村茂仁　（ウィメンズクリニック・かみむら）
上村　哲　（上村病院）
多和田俊保（たわだ泌尿器科）
山中　晃　（新宿東口クリニック）
大原宏樹　（池袋山の手クリニック）
谷口　恭　（太融寺町谷口医院）
島尾忠男　（水道橋三崎町クリニック）
白川裕一　（八重洲山の手クリニック）
澤畑一樹　（三菱化学BCL）
今井光信　（神奈川県衛生研究所）

研究要旨

HIV検査希望者にとって利便性が高いHIV検査・相談体制の一方法である「HIV即日検査」について、2001年より民間クリニックおよび保健所等検査機関へ導入支援を行った。

民間クリニックへの即日検査の支援は、2008年は25ヶ所で実施し、検査数は22,261件、陽性数は104件と、昨年度と比較して検査数・陽性数ともに増加した。陽性例の結果受け取りや感染症発生動向調査への届出等の状況は、2008年の陽性例104例中99例（95%）が確認検査結果を受け取っており、このうち33例は自施設で経過観察、61例は紹介先拠点病院に受診したことが確認されていた。また、感染症発生動向調査への届出は、91例（88%）がクリニックより届出、13例が紹介拠点病院に届出を依頼していた。

保健所における即日検査の実施状況については、即日検査の導入機関定点として、全国に先駆けて即日検査を導入した栃木県県南健康福祉センターおよび周辺地域である栃木県内保健所の受検者数の推移を調査した。検査数は即日検査導入によって増加し、その後の検査数も維持されており、周辺地域に即日検査機関が増加しても受検者数は他機関に分散されることなく、受検者数そのものが増加していることが分かった。

即日検査機関の増設は受検者数の増加に繋がることから、保健所等無料検査機関への導入支援をさらに進めていくとともに、HIVやその他性感染症の検査拠点として重要な役割が期待される民間クリニック・医療機関向けの即日検査導入のためのガイドライン作成を進めていきたい。

A．目的

HIV 検査希望者にとって利便性が高く、より効果的なHIVスクリーニング検査体制を構築することを目的として、民間クリニックおよび保健所等検査機関に「HIV 即日検査」の導入支援を行った。即日検査実施機関の受検者数等の動向から、即日検査の導入の効果を調査した。

B．方法

1．即日検査の実施状況

①民間クリニックにおける即日検査実施状況

2001年5月からHIV検査に理解のある都市部の民間クリニックと連携して、即日検査の導入を行った。2008年は、全国25ヶ所（東京12ヶ所、神奈川3ヶ所、大阪3ヶ所、札幌2ヶ所、愛知1ヶ所、福岡1ヶ所、京都1ヶ所、岡山1ヶ所、沖縄1ヶ所）のクリニックで実施した（図 1）。クリニックの検査数・陽性数の動向を継続的に調査するとともに、HIV 確認検査の陽性例の結果受け取りや届出等のフォロー状況に関するアンケート調査を実施した。

②保健所等検査機関での即日検査実施状況

HIV即日検査の導入施設定点として、即日検査を全国に先駆けて導入した栃木県県南健康福祉センターの受検者数・陽性数、周辺保健所の即日検査受検者数・陽性数について調査を行った。

C．結果

1．HIV即日検査の実施状況

①民間クリニックでの即日検査実施状況

2008年における25箇所の民間クリニックでの即日検査数の合計は22,261件、確認検査数208例、陽性数は104件（陽性率0.5%）で、前年に比べ検査数・陽性数ともに増加した（図 2)。偽陽性数は104例（偽陽性率0.5%）であった。陽性率は即日検査を開始した2001年からほぼ同割合で推移していた。陽性104例の属性は、男性日本国籍100例、男性外国籍4例、女性は0例であった。

2008年の検査数・陽性数を、「STDクリニック」と、女性の感染不安者やCSWの定期検診が中心の「婦人科クリニック」で分けると、STDクリニックでは、検査数20,113件のうち、陽性数が104件、陽性率は0.5%であり、性別では、男性は検査数が13,828件、陽性数が92件（陽性率0.7%）、女性では検査数が4,174件、陽性数が0件であった（性別不明2,111件）。婦人科クリニックでは、検査数が2,148件で、うち陽性は0件であった（図3)。

HIV確認検査の陽性例の結果受け取りや届出等のフォロー状況に関するアンケート調査を実施したところ、陽性例104例中、99例（95%）が確認検査結果を受け取っており、このうち33例（33%）は自施設で経過観察、61例（62%）は紹介先拠点病院に受診したことが把握されていた。また、感染症発生動向調査への届出は、91例（88%）がクリニックより届出、13例（12%）が紹介拠点病院に届出を依頼していた（図2)。

②保健所等検査機関での即日検査実施状況

保健所等検査機関でのHIV即日検査の導入施設定点として、栃木県県南健康福祉センターの受検者数・陽性数、周辺保健所の即日検査受検者数・陽性数についての調査の動向調査を行った。

2003年1月に全国で初めて即日検査を導入した栃木県県南健康福祉センターは、即日検査導入前（2002年）は受検者数が130件であったのに対し、即日検査導入後（2003年）は453件（2002年比3.5倍増)、導入後2年目（2004年）は814件（6.3倍)、導入後3年目（2005年）は767件（5.9倍)、導入後4年目（2006年）は635件（4.8倍)、導入後5年目（2007年）は788件（6.1倍)、導入後6年目（2008年）は832件（6.4倍)、と推移しており、2008年は前年よりも受検者数が増加していた（図4)。陽性数は1例（陽